

教師の授業観、どんなものがパターン
指導 → 変化の場々デザイン

学籍番号		学年	3	氏名	リノ
------	--	----	---	----	----

教師の授業観について 様々な捉え方があると思った。

教材や指導要領から得る
授業のイメージ

扱う内容にそって持つ、
いる考え

授業観

教師の問いに
子どもがどう答えるかの予想

教室のデザイン方法
(座席の位置など)

これらの他にも 人によって捉え方に異なると思う。

自分は 英語の授業の方法に興味があるので。

英語教師の もつ 授業観について 知ることができたら
学びになると感じた。

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

アラニ先生がはじめに、「組織より人が、人より組織か」という話をしていた。最近では「誰か良い人がいないか」など、個人の力を重視するようになったと聞いて、確かに、そうかもしれないと思いました。就職活動の宣伝などを見ても「イノベーションを起こせる人材」などと書かれていて、日本全体が個人を重視するようになってきている^{しかし、}と感じます。昔からある日本の「人より組織」という文化も必ずしも良いところばかりではなく、その組織がどんな組織かによって良くも悪くも働くと思います。

また、木村さんの自習の研究という発想が今までなかったのが、面白いと思いました。学校からは少し離れるけど、どんな環境で勉強をするのかは、学校での勉強と無関係ではないと思うので、自習の環境が学校での学習にどのような影響するのか分ければ、先生もそれに合わせて授業の仕方も工夫できるのではないかと思います。

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

・木村さんの自習の姿について、木村さんが隣で学ぶ姿勢を生徒に提示していることが影響しているのではないだろうか。お話を聞いた瞬間に感じた経験がもしなかったら、それによる達成感が影響しているかもしれない。

・「教師同士が学び合う時、子どもたちも学び合うようになる」という言葉には、子どもたちが誰と学び合うかが書かれています。学び合う

相手は教師か、子ども同士か、その他か、と色々と考えを巡らせる。おそらくはどの全ての人達と学び合うのだろう。

・指導という言葉について、他の言葉で「指導」の定義語は「支援」であると習った。生徒の学びをデザインする教師は指導ではなく支援をしているかもしれない。

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

「指導業」という表現は今まで抵抗を持っていたので、今日の話を聞いて、さらに思いが強くなった。教師は授業の中で何をすべきだろうか。

こうすればよいという正解がない中で、子どもに「教える」より「学ばせる」？「自分も学ぶ」という姿勢を持つことが望ましいのかもしれない。

ただ、実際に教壇にあっていて授業をするとなると、大人数の子どもを相手にどのように学びの場をデザインできるのか。想像すると難しいと感じた。

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

最近、アクティブ・ラーニングという言葉が確かにたくさん使われていますが、アクティブ・ラーニング、狭義ではグループワークをしたからと言って、活発な議論ができたからと言って学んでいることになるわけではないと聞き確かにこの通りだと思いました。集中講義の英語科教育の授業でも同じようなことを言われたの思い出しました。特に英語では、生徒が本当に英語を理解しているのかも疑わしいため、判断がより難しいのだと思います。

学籍番号		学年	3	氏名	
------	--	----	---	----	--

指導の本来の意味から授業と教師の関係を考えるのは面白かった。子どもが学び合う場、自由に話し合う場をデザインするために教師が自身の授業観を支えに行うことができたのは、机の配置や黒板などの物理的な土台造りと、学びのきっかけ補助をする教材の開発、子ども同士の関係性の理解と適切なグループ分けなどが挙げられると思った。教師が子どもに与えている影響は、意図したものに限らず、それに伴って生じた一見わかりづらいものもあり、その副次的影響も考えてみたいと思う。

学籍番号		学 年	3	氏 名	
------	--	-----	---	-----	--

「指導」とは学習の場を「提供」することだと僕は思う。
 見教師が授業をしていなかたとしても、
 そこが学習の場となる、ということだ。
 十分ありえると思う。たとえば、
 子どもたちに、大人が真剣な勉強
 している姿を見せることは有効かつ有効な
 あるいは、「勉強」というものは、学校の
 授業だけでなく、自分一人でも
 できること」というようなメッセージを
 「学習の経験を通じて伝える。
 (学習の経験を通じて伝える)
 この重要なのではないか、
 授業の可能性は無限大。
 学習の可能性も無限大。